

国、ロス・アラモス研究所のジェフ・コルピンは、計算機で新星爆発を何百回も追いかけて、I型の超新星爆発に到るまで計算するという気宇遠大な計画を述べた。ロス・アラモスという、原爆の計算を昔やった、大型計算機を自由に使える研究所にいて、そういうこともやって見ようと思うらしい。「たった一回の新星爆発を追いかける計算機代でさえ、苦勞して見つけて来るのに！」というのが私の正直な感想である。その後、パリ天文台のミッシュル・フリージャンとロンドン大のエバンスによる1982年わし座新星の報告があった。エバンスらの赤外線観測によると、塵粒子が爆発後（最大光度は1月27日）40日目にはでき、156日目の7月3日には表面温度が800 Kで10  $\mu\text{m}$  のところにこぶがあるという。新星としては、ずいぶん“よごれている”のだそうだ。

この日5時から、イスラエル科学相のニューマン氏の特別講演があった。大臣といっても、ニューマン氏はパリパリのIAUメンバーで、QSOのモデルを作った人でもある。氏の話はイスラエル、つまりユダヤ民族の天文業績についてで、旧約聖書時代の話から始まり、中世占星術を経て、現代にまで及んだ。手前味噌もあるだろうが、現在の氏の地位が示すように、天文・天体物理学という基礎科学がイスラエルで重んじられてきたのは事実である。1960年代には、天文系の講座がひとつもなかったのに、現在では、人口400万人弱のこの国で、3大学に講座があるという。また、ユダヤ教における暦の研究は昔から大事だったらしく、ユダヤ教の聖日“サバ”はこの週、8月13日の午後5時49分に始まり、14日の午後7時4分に終わった。しかも、この間レストランはおろか、バスまで止まってしまい、旅行者といえども安息日を甘受しなければならぬのである。

また、この日の晩10時から、カエザリアという昔ヘロデ王がイスラエルの首都とし、十字軍がイスラエル王国を建てた遺跡に、ショーを見に行つた。数千人は入ろうという古い大きな屋外劇場で、歌や踊りを見せてくれるのだが、ほぼ満席の状態であり、観光都市エルサレムでもそうだったが、注意していないと、紛争当事国であることを忘れてしまいそうになるほどだった。

最終日の12日は、午前中ニース天文台のシャッツマンが座長で、偏光を示す新星型変光星の話が続いた。まず、スチュワード天文台のタビアとルイジアナ大のチャムガンが偏光度と磁場の相関について話した。ワーナーは、はと座TV星(TVコロンボ:どこかで聞いた名前じゃありませんか?)をはじめとする10個の連星系について、公転周期と変光周期(自転周期)の観測を示し、同期回転について議論した。ヘルシンキ大のピローラはさらに、白鳥座CH星などの共生星の偏光観測を報告した。午後になって、キングが白色矮星への質量降

着とX線強度の話をしたが、これはドン・ラムらのモデルとくいちがいをみせ、座長のバスがその話だけでもコロキウムが開けそうだから、次回は是非それでやろうととりなすまで、面白いやり取りが二人の間で繰り返りひろげられた。続いてエバンスが新星を取りまく塵について、同じくロンドン大のミッシュルが1976年小ぎつね座NQ新星の赤外線観測を報告した。最後にバスとワーナーがまとめの話をしたが、バスは理論家らしく、降着円盤についての多くの残された問題を数え上げ、ワーナーは観測家として、特にIUE(国際紫外天文)衛星による観測や、元素組成の観測を強調した。私個人としては、これまであまり観測になじみがなかったが、赤外線、紫外線、X線等の観測により、増光前、減光後の新星の姿、共生星の分離観測、さらに良く似たX線近接連星との比較などから、激変星の新しいイメージが作られようとしているという感を強くした。

蛇足ではあるが、ムーシユット嬢にプールへ泳ぎに行こうと誘われて、ノコノコ出かけて行った私なのだが、朝6時半から泳いで、コロキウムに出席するというタフさかげんにはホトホト感服させられた。これでなければ観測家としてやってゆけないのだろうか?近頃、計算機の前に座ってばかりで、運動不足気味の私としては、学問以外の面でも多に考えさせられる研究会であった。

## お 知 ら せ

### 第13回、彗星会議のお知らせ

恒例の彗星会議を下記の要領で開催致します。ふるって御参加下さい。

日 : 1983年3月26日(土)、27日(日)  
 会 場: 東京都北区王子 6-1-10  
 駿台学園高等学校講堂 Tel. 03-913-5735  
 内 容: 26日 13時30分 開会  
 14時00分 セッションI: 掃索  
 18時30分 セッションII: ハレー  
 彗星  
 27日 9時00分 セッションIII: 特別講演  
 宇宙科学研究所 山本哲生氏  
 “彗星の物理”  
 13時00分 セッションIV: 観測  
 16時00分 閉会

参加費: 両日参加 宿泊付 8,800円, 7,500円

” 宿泊ナシ 4,500円

申込連絡先: 東京都渋谷区渋谷 2-21-12 (〒150)

五島プラネタリウム内 村松 修

Tel. 03-407-7131